

5 研究のまとめ

幼稚園、保育所、小学校において互いの授業や保育を見合い、カリキュラムや指導方法について話し合う中で、子供たちの育ちや学びをどのようにつなげていくか、理解を深めることができた。

1 成果

(1) 0歳からの子供の姿を整理する中で、人とのかかわりや生活の発達の道筋を押さえるとともに、教科の内容につながる学びの芽生えを見出し、年齢の段差が小さくなるように目指す子供の姿や活動例を設定することができた。

幼稚園・保育所での経験や学びが見える形で整理することで、それぞれの時期の子供たちが、これまでにどんな経験やかかわり方を積み重ねてきたか、その上で、どのような力を養っているか、接続を意識しながら、カリキュラムを作成することができた。

(2) 学びと育ちのカテゴリーに整理する中で、幼児教育における「遊びを通しての総合的な指導の重要性」や「心身の発達を促すために多様な体験をすることの重要性」が再確認できた。これまで作成してきたスタートカリキュラムの合科的な指導や時間の組み立て方など基本的な考え方の大切さを改めて認識し、学習指導案を工夫するとともに、学習活動例を増やすことができた。

(3) 幼稚園、保育所、小学校の教員が子供の発達の流れや指導方法を理解することにより、発達や学びの連続性を踏まえた多様な活動例をまとめることができた。ある時期のスパンの中で子供たちに身に付けさせたい力が養えるようないろいろな活動を示すことができ、幼稚園や保育所の実態に応じた選択が可能になった。

＜推進委員の感想より＞

【幼稚園・保育所】

- 人とのかかわり、生活、学びの3つの部会で、互いのカテゴリーについて話し合い、そのつながりについて理解を深めることができた。
- 0歳からの発達を考えていくことで、各年齢時で押さえない育ちや学びを確認することができた。
- 次の年齢や小学校への学びの視点を書くことで、改めて保育を見直したり考えたりすることができた。

【小学校】

- 幼・保の指導の仕方が分かり、幼・保の年長組の指導と小学校入門期の指導の逆転現象、指導案など、接続の視点から小学校の指導を見直すよいきっかけとなった。
- 多くの先生方と集まって話し合うことができ、カリキュラムをまとめるにあたっての必要なことを多く学ぶことができた。情報交換が多くできた。
- 「幼稚園との接続を踏まえた指導の工夫」が加わり、よりイメージのわきやすい実践事例集を作成できた。
- 初めて1年生をもつ人にとって、参考となる資料が作成できた。授業展開で配慮すべき点、実態に合った配慮事項を再確認できた。

2 今後の課題

人とのかかわり、生活、学びの3つの柱をもとにカリキュラムを作成してきたが、幼稚園・保育所の活動事例と小学校のスタートカリキュラムとのつながりは、さらに深める必要がある。保育者や教員が、子供の発達と互いのカリキュラムについて理解と見通しをもちながら、互いに連携し合える関係を作ることが大切だと感じている。

今後は、作成したカリキュラムを幼稚園・保育所、小学校で広く活用し、子供たちの育ちや学びを育むためには、どのような工夫や改善を図っていくことが必要か、現場の声を生かしながら活動事例や指導案の充実を図っていく。そのためにも、保育者や教員が互いの教育内容を理解して、接続期の教育が充実するよう、私立幼稚園や保育所とも関係を広げながら、パートナーシップ作りを進めていきたい。

- (1) スタートカリキュラムの教科学習の充実をさらに図る。幼稚園・保育所の教員や保育者の意見、次年度にカリキュラムを活用した小学校教員の声を反映させ、幼児教育と小学校教育のつながりを深めていく。
- (2) 育てたい力を重点化し、カリキュラムや活動内容の工夫や充実を行う。

＜推進委員の感想より＞

【幼稚園・保育所】

- 部会に出ていないメンバーにも知らせ、カリキュラムの内容や活用の仕方について広めていく。
- 今年度作成したカリキュラムについて、活用の仕方や、どのような内容が滑らかな接続や入門期の安定に役立っているかを検証する。

【小学校】

- 作成したカリキュラムを活用しながら、より使いやすいものに改善していく。

